

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 鯖江市地域公共交通活性化協議会 (鯖江市)

平成27年4月1日設置

令和3年9月24日 令和4年度フィーダー系統確保維持改善計画策定

令和3年12月 鯖江市地域公共交通計画 および  
鯖江市地域公共交通利便増進実施計画 策定  
(計画期間：令和4年4月～令和8年3月)

令和5年2月17日 第三者評価委員会にて令和4年度自己評価結果 発表

令和5年9月26日 令和6年度フィーダー系統確保維持改善計画 認定

令和5年12月 令和5年度自己評価結果送付

# ◆豊かさや安心のある暮らしを支える交通環境

## 【鯖江市の概要】

人口：68,390人（R5.12.1時点）  
 鉄道：JR北陸本線（市内に2駅）  
 福井鉄道福武線（市内に6駅）  
 バス：コミュニティバス つつじバス  
 （循環線1,支線8）  
 路線バス（福井鉄道）  
 （2路線3系統）

## 【鯖江市地域公共交通計画】

計画期間：令和4年4月～令和8年3月（5年間）

## 【目指す姿】

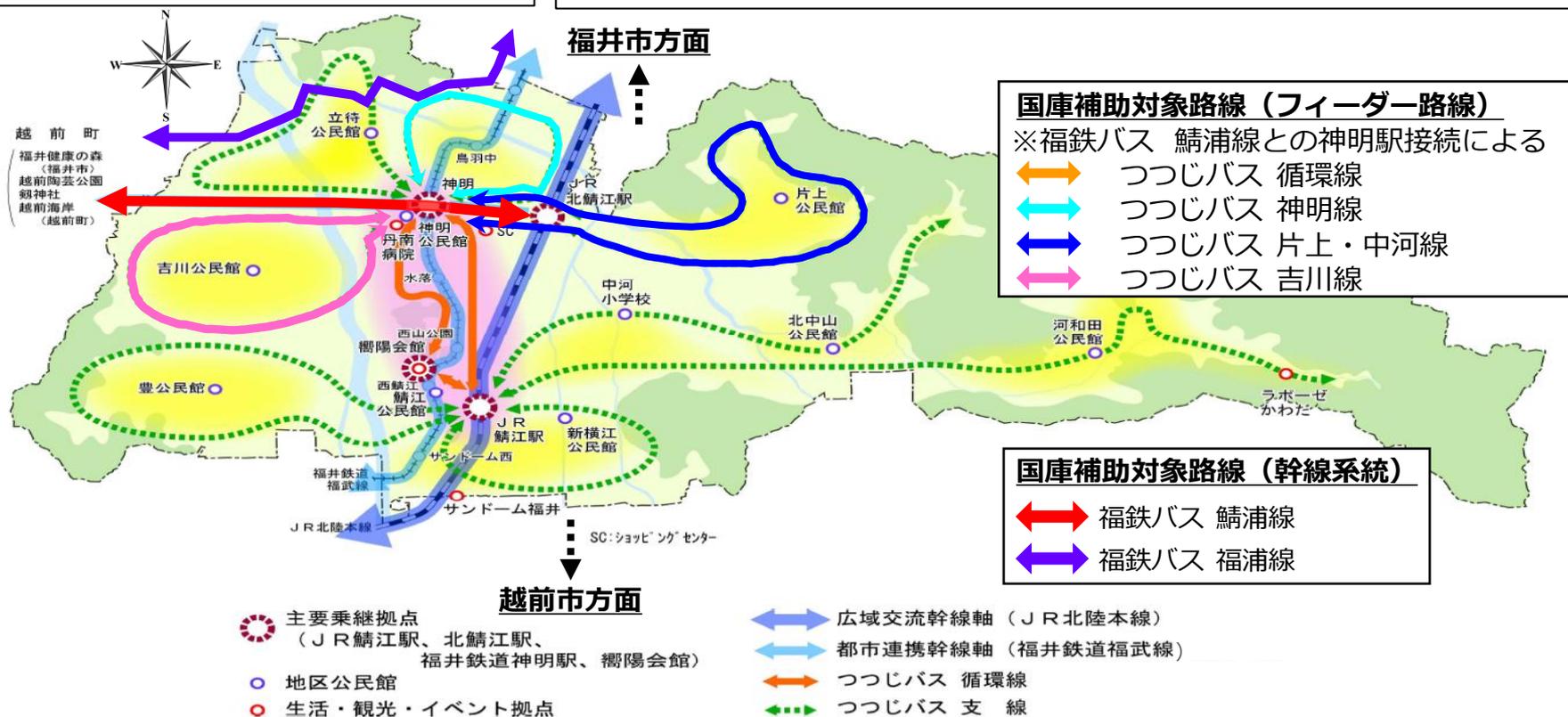
車がなくても、公共交通を利用して日常生活に必要な移動ができる

## 【計画期間内の重点事業】

つつじバスの再編/運行 ⇒ 令和4年4月実施

## 【令和5年度の方針】

再編したつつじバスのダイヤ定着および愛着醸成による利用者増加



# 実 施 状 況

## 1. 昨年度に行った主な取り組み

### ① R4.4 コミュニティバスの再編

【再編内容】

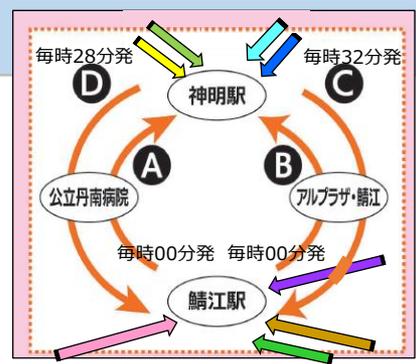
- ・市内循環線を1周60分のパターンダイヤ化
- ・各地区路線も1周60分以内に路線再編し、市内循環線との接続性確保
- ・一部の地区路線にて速達便を設け、市内中心部への移動の速達化実現

→ 再編前と比較して利用者数は増加傾向であり、再編後のダイヤが定着してきている。

### ② 中型バス車両更新に合わせた新車両デザインの導入

- ・過去に車両デザインを行っていただいた大学に新デザインの作成を依頼

→ コミュニティバスへの興味を持ってもらうきっかけ作りとなった。



## 2. 今年度に行った主な取り組み（一部継続含む）

### ③ 高齢者サロンへの出前講座実施（継続）

- ・各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性が向上した点について、丁寧に説明を実施。

### ④ SNSを活用した情報発信の開始（新規）

- ・InstagramおよびX(旧Twitter)を活用したコミュニティバスの情報発信を開始

→ 幅広い年代層に向けたコミュニティバスへの周知、市外の方に向けてもSNSを通して市のPRに繋がる。

### ⑤ バス車内の掲示スペースをギャラリースペースとして活用（新規）

- ・市内イベントでコミュニティバスに関するブースを出展し、来場者(主に親子連れ)にバスの塗り絵を描いてもらい、夏休み期間にバス車内に掲示

→ 一度コミュニティバスに乗ってもらうきっかけ作りの創出。

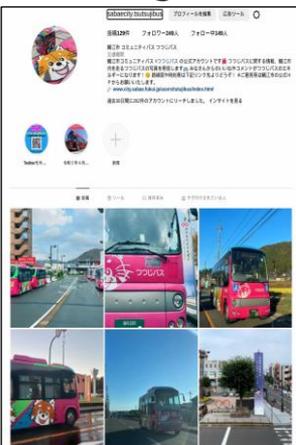


具 体 的 な 内 容

④ SNSを活用した情報発信の開始 (新規)

Instagram

X(旧Twitter)



Instagram

- 市内を走るバスの写真投稿
- ➡ コミュニティバスに親しみを感してもらおう

X(旧Twitter)

- 工事に伴う迂回やバス停休止情報などの投稿
- ➡ バス停に行かなくても情報を得られる



バス車内に  
チラシを掲示し  
SNSサービスの  
周知実施中

媒体によって主な投稿内容を変更することで、幅広い利用者層へのコミュニティバスのPRを実施  
⇒ 既存ポータルサイトに並ぶ情報発信プラットフォームの構築

⑤ バス車内の掲示スペースをギャラリースペースとして活用 (新規)



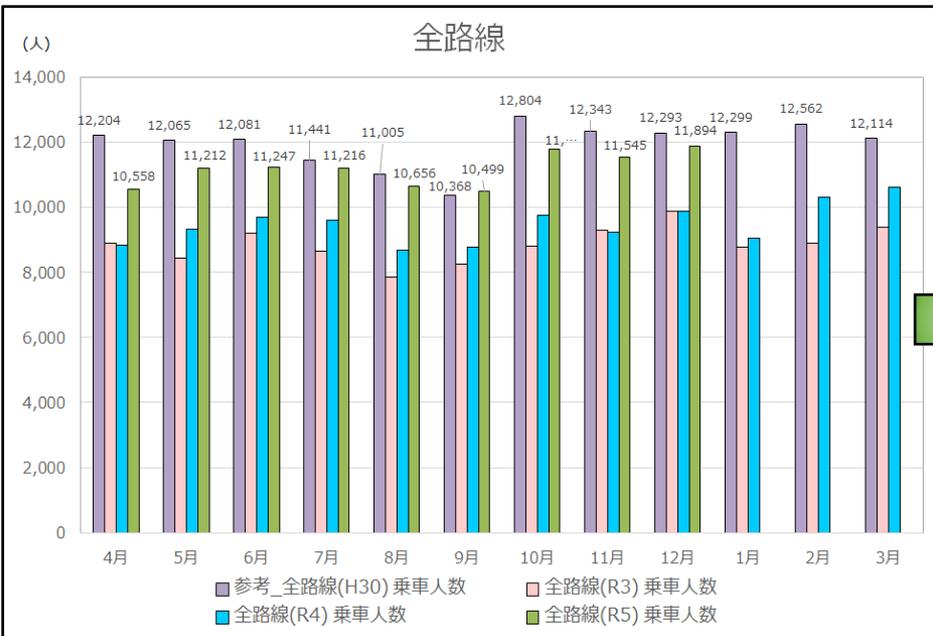
R5.6.18 さばえ環境フェアに公共交通を知ってもらうためのブースを出展  
来場者に対してコミュニティバスの概要説明を行い、バスの塗り絵を子供向けに実施  
描いた塗り絵は夏休み期間(7月中旬から8月末)にバス車内に掲示  
家族揃って一度バスに乗ってもらうきっかけ作りとなる取組みとなった

来年度以降も  
規模を拡大して  
継続予定

### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察 (1/2)

評価指標・現況値・目標値			達成状況					考察
			1年目 (R4)	2年目 (R5)	3年目 (R6)	4年目 (R7)	5年目 (R8)	
つつじバス 年間利用者数	14.4万人 (H30年度)	17万人 (R8年度)	113,806人 (R4.4～ R5.3)	100,616人 (R5.4～ R5.12)				R4.4に実施したダイヤ改正内容の定着、循環線のパターンダイヤ化、各地区路線と循環線の接続向上を図ったことから利用者数は増加傾向。(対前年度比120%で推移) 参考値：R3年度実績 106,351人
福井鉄道福武線 市内駅利用者数	47.4万人 (H30年度)	50万人 (R8年度)	428,515人 (R4.4～ R5.3)	225,063人 (R5.4～ R5.9)				市内主要駅を基点としたイベントの開催およびつつじバスダイヤ改正時に電車との乗継ぎ改善を行ったことにより利用者数が徐々に回復傾向。(対前年度比105%で推移) 参考値：R3年度実績 407,237人
利用者1人 あたり 公的資金投入額 (つつじバス)	552円/人 (H30年度)	540円/人 (R8年度)	847円/人	未測定				年度途中のため未測定。人件費高騰および運行委託にかかる費用が増幅したことから、目標に対して大きく未達。利用者数は増加傾向のため、1年目よりは下がる見込み。
公共交通が充実 していると感じ ている人の割合	58.7% (R1年度)	80% (R8年度)	未測定	未測定				計画期間がR4年度からR8年度までであることから、中間年(R6年度)および最終年度(R8年度)にアンケート調査を行う。
公共交通集落 カバー率	95% (R3年度)	97% (R8年度)	96% (R4.4時点)	96% (R5.4時点)				R4.4のつつじバス再編に伴い、路線の組み替えおよび新規バス停を設置したため、現況値より向上。R5年度はR4年度と同様の路線のため、カバー率変動無し。
つつじバスポータルサイト(バス どこサービス)ア クセス数	15.7万回 (H30年度)	16万回 (R8年度)	147,504回 (R4.4～ R5.3)	72,707回 (R5.4～ R5.12)				R5年度についてはダイヤ改正が無かったこと、最も利用者が多い循環線をパターンダイヤ化し、利用者にダイヤの定着が図られたことからアクセス数が減少したと想定。 また、Googleアナリティクスの集計方法が変わったことも要因。 参考値：R3年度実績 126,936回
公共交通利用促 進の市民団体の 活動回数	12回 (H30年度)	15回 (R8年度)	6回 (R4.4～ R5.3)	6回 (R5.4～ R5.12)				駅を中心としたイベントを開催し、親子で一度公共交通を利用してもらう取組みを行い、公共交通のPRを実施した。(今年度残り見込み+2回予定) 参考値：R3年度活動実績 3回

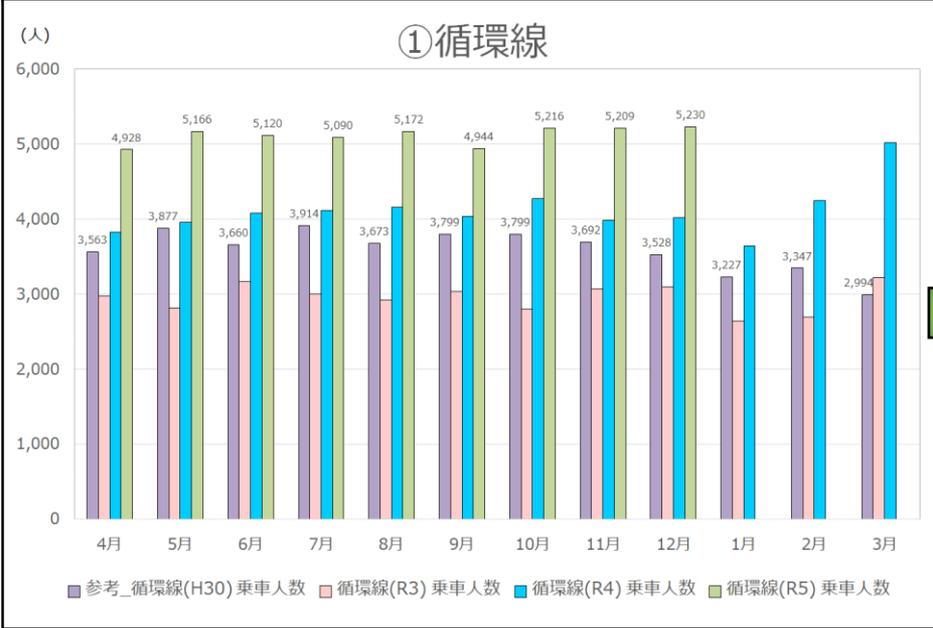
コミュニティバス つつじバス利用者実績 (H30~R5)



R4.4に再編を行った新しい路線およびダイヤが徐々に定着をしてきており、ほぼ全ての路線において、増加傾向となっている。

再編前のR3年度比で再編後のR4年度は107% R4年度比でR5年度については120%で推移中

このペースで推移すると年間13.6万人を超える利用者となっており、H30年度水準(14.4万人)にはまだ届かないが、コロナ禍前のR1年度水準(13.7万人)に届く勢いである。



- ・循環線のパターンダイヤ化
- ・各地区路線との接続拠点での接続性向上

上記2つの再編を実施したことにより、再編前のR3年度を大きく超える水準でR4年度およびR5年度は推移。コロナ禍前のH30年度も超える水準である。

〈主な利用者の声〉

- ・パターンダイヤ化により時刻表を見なくても分かりやすいダイヤになった。
- ・1周60分となったので、目的地の施設で滞在できる時間が分かりやすくなった。
- ・地区から出てきて、市内中心部の施設に行きやすくなった。

評価指標	計画目標の現在の到達地点	今後の取組方針
つつじバス 年間利用者数	R4.4に路線再編を行い、R4年度の実績は再編実施前(R3年度)と比べて127%ほどで推移している。R4年度と比較してもR5年度については120%ほどで推移しており、このままのペースでいくとコロナ禍前の水準に届く見込み。ただし、最終年度の目標に対しては未達の状況である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスに対して親しみをもってもらうことを目的に<u>来年度更新する車両についても車両デザインの変更、バス停看板デザインについてもデザイン一新</u>をすることで愛着醸成を図る。</li> <li>・市内温浴施設3カ所との提携を図り、相互の利用者数増加を図る。</li> <li>・<u>市内循環線と各地区路線の接続性が向上した点の更なる周知を行うため、接続のモデルルートが書かれた回覧物を地区毎に配布。</u></li> <li>・北陸新幹線敦賀開業に伴う(株)ハピラインふくいの鉄道新ダイヤとの接続調整。</li> <li>・<u>地区路線の一部でフリー降車制を実証的に実施</u>し、利用者からの意見の吸い上げを実施する。</li> </ul> <p>→ 新規利用者層の獲得を行うとともに、既存ユーザーの利便性を損なわないことを第一に利便性向上策も合わせて実施し、目標年度（R8年度）の目標達成を目指す。</p>
福井鉄道福武線 市内駅利用者数	コロナ禍から徐々に回復傾向であるが、依然としてR8年度目標にはまだ遠いため、利用者が駅に集うような対応が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5年度においては、市内駅を中心とする「神明駅」を会場とした鉄道利用者(切符購入者)が楽しめるイベントを行い、来場者数約2,000人が訪れ周辺飲食店を含めた活性化を生むことができた。来年度については今年度のイベントをアップグレードした形で市内駅6駅それぞれを会場としたイベント開催を行い、回遊性を生み、鉄道利用者数を増加させる取り組みを実施する。</li> </ul> <p>→ 目標年度（R8年度）の目標達成に向けて利用者が増加に繋がる促進策を1つ1つ実行していく。</p>
利用者1人 あたり 公的資金投入額 (つつじバス)	公的資金投入額減に向けて、広告料収入の増加によるカバーが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広告料収入の増加に向けて、広告事業の詳細についてHP等でも広く周知を行う。また、毎日運行を行っているつつじバスを活かすため、新たな広告の種類として<u>車両ラッピング広告をR6年度中に設け、募集を開始する予定</u>である。</li> </ul> <p>→ あわせて利用者増加促進策にも力を入れることで、1人あたりの公的資金投入額目標達成を目指す。</p>

評価指標	計画目標の現在の到達地点	今後の取組方針
公共交通が充実していると感じている人の割合	-	地域公共交通計画に定めた事業実施のスケジュールを滞りなく行うことで、目標年度(R8年度)の調査での目標達成を目指す。
公共交通集落カバー率	つつじバス再編に伴う新規バス停設置により、目標達成が見えてきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後再編した路線で運行していく中で、主に路線上で設置の要望が各地区からあった場合は前向きに検討する。R5年度については1件、町内から既存バス停の移動要望があったため、内容を精査した結果、R6年度にバス停の移動を行う見込みである。</li> </ul> <p>→ 上記の対応により、利用者の利便性向上および公共交通集落カバー率向上を図り、目標年度(R8年度)には目標値を達成する見込み。</p>
つつじバスポータルサイト(バスどこサービス)アクセス数	利用者にダイヤの定着が図られたことからアクセス数が減少したと想定。またアクセス数を測定するGoogleアナリティクスの集計方法が変わってしまったため、アクセス減少。ただし、ポータルサイトの使い方についての問合せが増えてきており一定の手応えを感じている状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年者に向けては、新たなSNS(InstagramやX(旧Twitter))を利用したバス情報の発信により、サービスの周知を図る。</li> <li>・現在行っている高齢者サロンに向けた<a href="#">出前講座の資料を一部変更し、ポータルサイトの見方や利用の仕方を紹介する資料を差し込んだ</a>。引き続き、来年度についても高齢者サロンを通じてポータルサイトの周知を図る。</li> </ul> <p>→ 目標達成年度(R8年度)に向けて着実に利用者数増加を目指す。</p>
公共交通利用促進の市民団体の活動回数	公共交通促進のPR対象が主に電車になってしまっており、バス等のPRが足りていない課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施したバス塗り絵コーナーを引き続きイベント時に設け、親子連れを対象に公共交通への意識醸成を図る。描いてもらった塗り絵等の作品は夏休み期間にバス車内に掲示することで、利用者促進策としても活用する。来年度については、乗車してもらうきっかけとして強く働きかけるため、塗り絵等を描いてもらった来場者に対し、バスの乗車券配布等もあわせて検討する。</li> </ul>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和3・4年度)	<p>地域公共交通計画の各種取組事業を着実に進められるとともに、事業の進捗管理し、計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を通じ、必要に応じ見直しを検討するなど、目標達成に向け取組を進められることを期待します。</p>	<p>事業の実施スケジュールに沿って、事業を進めていけるよう、年間の協議会運営スケジュールに基づいてPDCAサイクルを回している。令和5年度については、車両デザインをマイナーチェンジを行った中型バス1台の更新を行った。また、新たなSNSを利用した情報発信をInstagramおよびXにて開始した。</p>	<p>令和6年度に向けては、中型バス同様、車両デザイン更新を含めた小型バス5台の車両更新を実施するとともに、市内温浴施設との提携による新たな利用者獲得、北陸新幹線敦賀開業に伴う並行在来線鉄道ダイヤの変更によるバスダイヤの一部調整、地区路線一部エリアにおけるフリー降車制の実証実験の実施による利用者からのフリー降車制に対しての意見収集、市内高校のデザインコースの学生と協働でバス停丸看板デザインの新しいデザインを作成し、市内にある約290カ所の全バス停看板の変更を行う。これらの事業実施を通じ、利用者利便性の向上および更なる愛着醸成を図る。</p>
	<p>市内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統(特に鯖浦線、福浦線)について現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け、県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。</p>	<p>県主導の「生産性向上に向けたWG」に参加。各系統の実状を把握するとともに路線沿線市町の利用者促進策について共有を行った。コミュニティバスのダイヤ改正を行う際、可能な限り乗継ぎができるようにダイヤの調整の実施を行った。あわせて、地域間幹線系統を運行している事業者が実施しているお得な制度について、市のHPへの掲載、市役所内にチラシの設置を行うことで利用者への周知を図った。</p>	<p>コミュニティバスとの接続状況などについて市民に向けてHP等にて周知を行い、利用者数増加を図る。</p>

※前回：令和5年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和3・4年度)	循環線ダイヤは支線との接続を重視しているとのこと。各路線の重視しているポイントを含め広く利用者に知ってもらうことも重要であるため、この点を踏まえた今後の周知活動に強く期待します。	循環線の利用者が毎月増加傾向であることから、支線と循環線の接続については既存利用者には周知ができたものと考えている。 令和5年度についても昨年度同様、高齢者サロンに出向き、出前講座でその地区・町内におけるバスの効率的な利用方法について説明を行った。	今後については、出前講座の中でR4.4に路線改編および地区路線と循環線の接続性向上についてそもそも知らない高齢者の方が多い印象を受けた。 接続性の向上が図られたことを知らない層・バスに乗ったことがない層に対して、 <b>各地区路線が重視しているポイントや地区路線から循環線への接続モデルルート</b> の周知が広く出来ていないことから、 <b>地区毎(各町内毎)への班回覧物の配布</b> についても実施していくことを検討している。

※前回：令和5年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回 (令和2・3年度)	<p>地域公共交通計画等に沿って各種事業を着実に進められるとともに、事業の進捗管理についても併せて取り組まれるようお願いいたします。</p>	<p>事業の実施スケジュールに沿って、事業を進めていけるよう、年間の協議会運営スケジュールに基づいてPDCAサイクルを回している。</p>	<p>つつじバス車両の更新については、R4年度中に中型バス1台の更新、R5年度以降については小型バスを順次更新していく予定である。あわせて、車両の更新にあわせて車両デザインのマイナーチェンジを行うことで話題性の確保を行い、つつじバスへの愛着醸成を図る。また、つつじバス1日フリー乗車券の導入、SNSを利用した情報発信もR5年度中に順次開始していく予定で進めている。</p>
	<p>地域公共交通計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を定期的に行うとともに、必要に応じた見直しを進められることを期待します。</p>	<p>R4.12の協議会にて自己評価報告を行った。</p>	<p>協議会において随時報告を行うとともに、必要に応じて委員の方々の意見を聴取しながら、必要に応じて見直しも検討していく。</p>

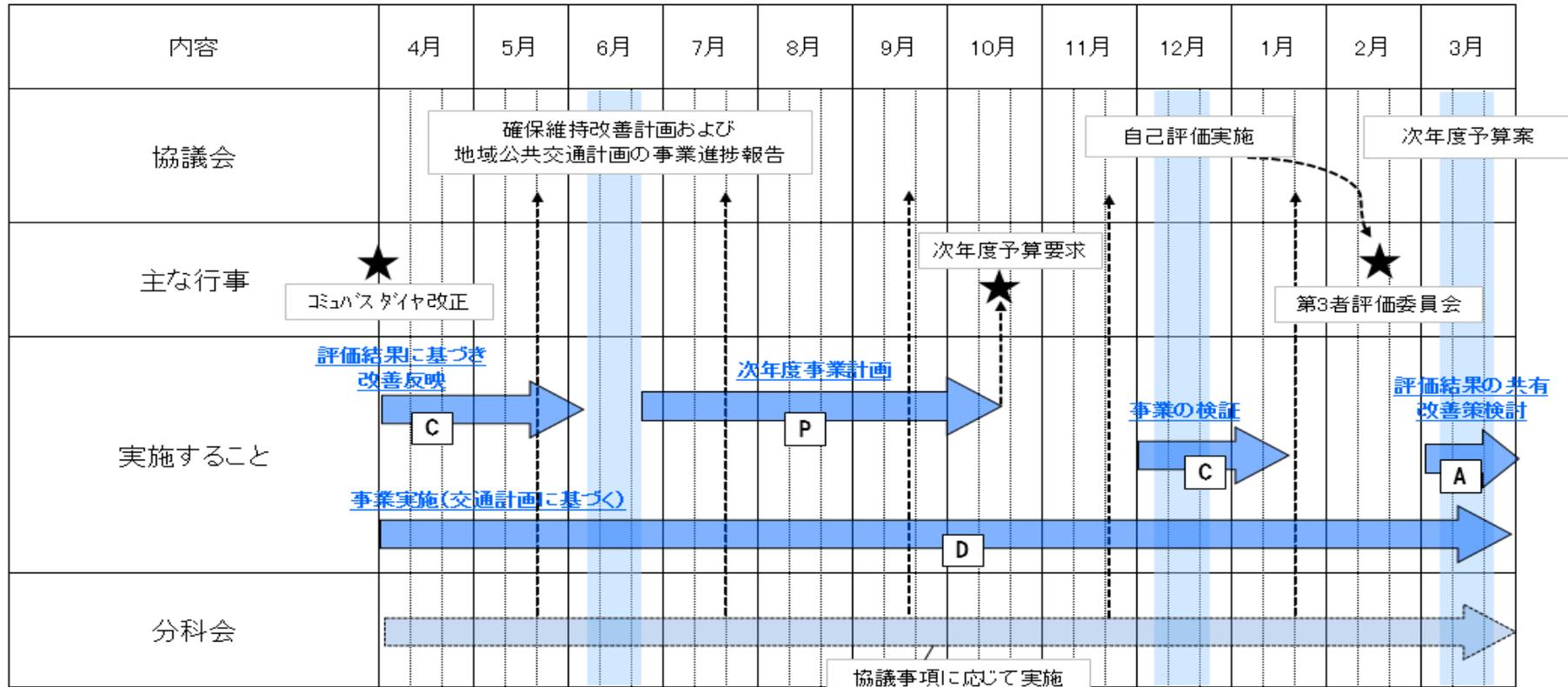
※前々回：令和4年3月10日

## 5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況（4/4）

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回（令和2・3年度）	<p>令和4年4月に予定される、市内交通の見直しに際して、利用者の混乱を招くことがないよう、運行ダイヤ等の周知徹底をお願いします。</p> <div data-bbox="227 554 691 901"> <p style="text-align: center;"><b>抜粋</b></p> <p><b>乗継ぎ早見表</b> 各地区路線便⇄橋本線 の乗継ぎ(主な乗り継ぎ方を抜粋しております。)</p>  <p>この図表は、橋本線と各地区路線便の乗継ぎ時刻を示しています。乗継ぎ早見表の抜粋として、橋本線と各地区路線便の乗継ぎ時刻を示しています。乗継ぎ早見表の抜粋として、橋本線と各地区路線便の乗継ぎ時刻を示しています。</p> </div>	<p>全路線図およびそれぞれの路線においてどの部分が改正になったのかを具体的に明示して市のHPに掲載した。市の広報の見開きページ特集にて、つつじバスのダイヤ改正についての掲載を実施した。</p> <p>また、広報と合わせて携帯型時刻表を挟み込み全世界に新ダイヤの時刻表を配布した。</p> <p>市内の主要施設(商業施設・公民館・温浴施設・駅等)にも時刻表をあらかじめ設置するとともに、<b>R4年度版の時刻表には巻末に乗換え早見表</b>を掲載することで、新しいダイヤへの変更による混乱を最小限に抑えるように努めた。</p> <p>あわせて新ダイヤの定着が早期に図られるように市内各町内にある高齢者サロンへの出前講座を継続的に実施し、どの部分がダイヤ改正で変わったかを資料を用いて丁寧に説明している。</p>	<p>引き続き高齢者サロンへの出前講座を継続的に実施し、利用者方々に対して新ダイヤが定着するようにフォローを実施する。</p> <p>なお、今後ダイヤ改正を実施する際は早め早めの情報出しを意識して、情報を提供する。</p>
	<p>市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。</p>	<p>県主導の「生産性向上に向けたWG」に参加。各系統の実状を把握するとともに路線沿線市町の利用者促進策について共有を行った。コミュニティバスのダイヤ改正を行う際、可能な限り乗継ぎができるようにダイヤの調整の実施を行った。あわせて、県が実施しているおでかけ応援事業（フリーきっぷ半額キャンペーン）等お得な制度について、市のHPへの掲載、市役所内にチラシの設置を行うことで利用者への周知を図った。</p>	<p>コミュニティバスとの接続状況などについて市民に向けてHP等にて周知を行い、利用者数増加を図る。</p>

※前々回：令和4年3月10日

《活性化協議会 年間スケジュール》



【協議会の実施状況】(R3年度)

- 第1回協議会 6/23 主な議題：確保維持改善計画  
計画事業の進捗状況報告
- 第2回協議会 9/28(書面) 主な議題：計画策定に伴う補正予算案
- 第3回協議会 11/26 主な議題：コミュニティバスダイヤ改正案  
地域公共交通計画案について
- 第4回協議会 12/24 主な議題：地域公共交通計画改訂案について  
利便増進実施計画案について  
自己評価の報告案について
- 第5回協議会 3/4 主な議題：令和4年度予算案について  
ダイヤ改正に伴うフィーダー系統  
変更申請

【協議会の実施状況】(R4年度)

- 第1回協議会 5/27 主な議題：確保維持改善計画  
自家用有償旅客の運送の運賃改正
- 第2回協議会 12/2 主な議題：自己評価の報告案について  
コミュニティバス新ダイヤの運行状況
- 第3回協議会 3/24 主な議題：自家用有償旅客の運送の登録更新  
令和5年度予算案について

【協議会の実施状況】(R5年度)

- 第1回協議会 6/26 主な議題：確保維持改善計画  
計画事業の進捗状況報告
- 第2回協議会 8/23(書面) 主な議題：RENEW期間中のタクシー会社の一時的な営業区域外運送の実施について
- 第3回協議会 12/27 主な議題：自己評価の報告案について  
コミュニティバスダイヤ改正案

# 6.計画・評価の推進体制 (2/2)

## ■事業の実施スケジュール

目 標	実 施 事 業	令 和 4年度	令 和 5年度	令 和 6年度	令 和 7年度	令 和 8年度
1. 多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現	(1) 幹線交通の運行 (JR北陸本線(並行在来線)、福井鉄道 福武線、 福鉄バス 鯖浦線、福浦線)					
	(2) つつじバスの再編・運行					
	(3) つつじバス車両の更新					
	(4) 外出支援等のためのタクシーの運行・助成					
	(5) 北陸新幹線へのアクセス手段の検討					
	(6) 多様な輸送資源の活用検討					
2. まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現	(7) 主要バス停の待合環境の整備					
	(8) 主要乗継拠点でのつつじバス発着情報案内の設置					
	(9) 運行事業の安定化に向けた企業広告等の推進					
	(10) 障がい者、運転免許自主返納者等へのつつじバス利用者 無料証の交付					
	(11) キャッシュレス決済の導入検討					
	(12) JR鯖江駅東口改札の設置および周辺整備に向けた取り組み					
	(13) つつじバスのフリー乗降制の検討					
	(14) パーク&ライドの利用促進					
3. 観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現	(15) つつじバスのリアルタイム位置情報表示 「バスどこサービス」の継続と利用環境の拡充					
	(16) レンタサイクルの利用啓発					
	(17) つつじバスの利用料金割引制度 (乗継割引、福井鉄道「ハッピー1日フリー乗車券」との乗継 割引、回数券)					
	(18) つつじバスの利用料金割引制度の拡充 (1日フリー乗車券の導入)					
	(19) 商店街との連携によるつつじバス乗車券の交付					
	(20) 観光施設等との連携によるつつじバス乗車券の交付					
	(21) バス車内への観光パンフレットの設置					
	(22) つつじバス車内を利用した観光案内					
	(23) バス停表示看板のデザイン更新					
	(24) SNSを利用した情報発信					
	(25) 公共交通乗務員の接遇向上					
4. 市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現	(26) 公共交通とまちづくりに関する意識啓発と利用促進					
	(27) つつじバスの利用促進					
	(28) 自治会によるつつじバス停留所の上屋の設置・管理と 行政による支援					
	(29) 公共交通機関としてのタクシーに関する情報発信					

■ : 新規事業  
■ : 継続事業  
--- : 検討・調整中  
--- : 実施

## ■収集するデータと収集方法

計画目標	収集データ	収集方法
<目標1> 多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現	幹線交通利用者数	・各交通事業者が対象となる公共交通の利用者数を報告
	つつじバス利用者数	・運行便別に利用者数(乗降バス停、利用券種別)を調査
	タクシーを活用した助成事業の利用者数	・事業主管課から利用状況入手・整理
<目標2> まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現	バス停の整備状況	・バス停の整備状況(案内情報含む)を調査し、整備カルテを作成 ・整備カルテにより現状を把握
	広告収入	・車両、バス停、時刻表等の種別毎の広告収入データを整理
	つつじバス利用者無料証交付数	・障がい者、運転免許自主返納者等への交付数の整理
	パーク&ライド駐車場利用状況	・福井鉄道(株)が市内各駅のパーク&ライド駐車場の利用状況を報告 ・JR鯖江駅東口駐車場については、事業主管課から利用状況入手・整理
	公共交通が充実していると感じている人の割合	・アンケート調査で把握
	公共交通集落カバー率 (鉄道、路線バス、コミュニティバス)	・集落カバー状況を整理
	つつじバスポータルサイト (バスどこサービス)アクセス数	・アクセス状況を整理
<目標3> 観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現	バス停の情報案内状況	・上記のバス停整備カルテによって、現状を把握
	レンタサイクル利用者数	・事業主管課から利用状況入手・整理
	つつじバス乗り継ぎ券、回数券の発行数	・乗り継ぎ券、回数券の発行数の整理
	つつじバス学生回数券の発行数	・学生回数券の発行数の整理
	商店街での買い物によるつつじバス無料利用者数	・利用数を整理
	観光施設等の利用によるつつじバス利用者数	・利用数を整理
	SNSを利用した情報発信	・アクセス状況を整理
	公共交通乗務員の接遇向上のための教育訓練の状況	・公共交通事業者が該当する教育訓練の実績を報告
	公共交通利用促進のための市民団体の活動回数	・市民団体の活動回数を整理
	自治会によるバス停の上屋の設置・管理状況	・本市の助成制度活用状況を整理
<目標4> 市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現	タクシーに関する情報発信状況	・タクシーに関する情報発信状況を整理

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月27日

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・経路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、陸上交通に係る確保維持事業において船舶航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】		A・B・C・D・E 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C・D・E 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載する。】
つつじ橋	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、立待線、河和田線	【前回の評価内容】 (評価できる取組み) ①利用者がわかりやすいパターンダイヤに変更したことについて評価します。 ②中心部にできるまでの速達便を設け、利便性を向上させたことについて評価します。 ③新しいダイヤ変更による混乱を最小限に抑えるため、市広報と合わせて乗換え早見表を掲載した携帯型時刻表を全市帯に配布し、市内の主要施設(商業施設・公民館・温浴施設・駅等)にもあらかじめ設置した点、更に市内の高齢者サロンへの出前講座を継続的に実施し、新ダイヤの定着に向けた取組について評価します。	令和5年度事業については、概ね地域公共交通計画に基づいて事業を進めることが出来た。 令和4年4月に実施したダイヤ改正の内容を定着することを第一としつつ、新たな利用者獲得に向けて幅広い年代層に向けた事業を行ってきたことである。 車両の更新については、4月に新しいデザインの中型バス1台の更新を図り、県内の私立大学生と協働で作成したデザインであったことから、幅広いPRに繋がるとともに、乗り心地向上による利用者の快適性の向上も図った。また、新しいデザインの小型バス5台についても来年度4月の更新を目指し、入札業務の実施を行い、3月納車で準備を進めている段階である。小型バスについては、利用者の多い循環線のバス車両として使われるため、多くの利用者に向け、快適性が向上するものと見込んでいる。	○実績 【R3】R2.10~R3.9 目標 230,900人 実績 107,021人 R4.4.1~ダイヤ改正実施 【R4】R4.4~R5.3(※R3.12に地域公共交通計画策定、R4.4.1にダイヤ改正を実施したことによる) 目標 149,200人 実績 113,806人 【R5】R4.10~R5.9 目標 154,400人 実績 124,279人 【R6】R5.10~R6.9 目標 159,600人 実績 79人 【R7】R6.10~R7.9 目標 164,800人 実績 人 【R8】R7.10~R8.9 目標 170,000人 実績 人	利用者数については、目標に対しては未達であるが、令和4年4月にダイヤ改正・路線改編を行ったから増加傾向であり、利用したことのない層への利用促進PRおよび使い方の説明を行っていくことで、更なる利用者の増加が見込まれると想定しており、最終年度までに達成が出来る見込みである。
越前観光	つつじバス 循環線、鯖江南・新横江線、豊線	(期待する取組み) ④地域公共交通計画の各種取組事業を着実に進められるとともに、事業の進捗管理し、計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を適切に見直しを検討するなど、目標達成に向け取組を進められることを期待します。 ⑤循環線ダイヤは支線との接続を重視していることと、各路線の重視しているポイントを含め広く利用者を知ってもらうことも重要であるため、この点を踏まえた今後の周知活動に強く期待します。 ⑥市内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統(特に鯖浦線、福浦線)について、現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け、県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	新たな取り組みとしては、市内高校のデザインコースの学生と協働でバス停標識看板(丸板)のデザイン刷新を行うにあたり、丸板看板の新デザイン作成の実施を行い、12月にデザイン審査選考会を実施し、最終案を決定する予定である。バス停丸板看板の新デザインについては、小型バス5台の新しいデザインの車両更新と合わせて実施を行い、話題性の確保およびコミュニティバスへの愛着醸成を図るきっかけとする。	※一便あたりの利用者数推移 ○線 [R3]→[R4]→[R5]→[R6]→[R7]→[R8] 循環線 [5.99]→[6.94]→[8.11]→[ ]→[ ]→[ ] 鯖江南・新横江線 [1.26]→[1.55]→[1.39]→[ ]→[ ] 神明線 [4.13]→[3.24]→[3.70]→[ ]→[ ]→[ ] 片上・中河線 [3.57]→[2.20]→[2.71]→[ ]→[ ]→[ ] 立待線 [4.12]→[3.70]→[4.68]→[ ]→[ ]→[ ] 吉川線 [5.02]→[4.02]→[4.70]→[ ]→[ ]→[ ] 豊線 [4.45]→[5.00]→[6.17]→[ ]→[ ]→[ ] 北中山・中河線 [1.18]→[1.39]→[1.49]→[ ]→[ ]→[ ] 河和田線 [5.21]→[4.24]→[4.55]→[ ]→[ ]→[ ] 全路線 [4.38]→[4.32]→[5.01]→[ ]→[ ]→[ ]	今後の事業内容については、R6.3月の北陸新幹線敦賀開業に伴い、JR北陸本線がJR西日本からJR福井ラインふいに経営が移管されるため、電車との乗継ぎについても確認を行い、必要に応じて各地区路線の通勤・通学(朝・夕)の時間帯の調整を行い利用者の利便性を損なわないようにする。
鯖江交通	つつじバス 吉川線、立待線	【事業の実施内容】 ④事業の実施スケジュールに沿って、事業を進めている。令和5年度については、SNS(InstagramおよびX)を活用したコミュニティバス情報発信の開始、車両デザインのマイナーチェンジを含めた中型バス1台の車両の更新を行い、つつじバスへの愛着醸成を図った。令和6年度に向けては、中型バス同様、車両デザイン更新を含めた小型バス5台の車両更新を実施するとともに、新たな取り組みとしては、市内温浴施設との提携による新たな利用者獲得、北陸新幹線敦賀開業に伴う並行在来線鉄道ダイヤの変更によるバスダイヤの一部調整、地区路線一部エリアにおけるフリー降車制の実証実験の実施による利用者からのフリー降車制に対する意見収集、市内高校のデザインコースの学生と協働でバス停丸板看板デザインの新しいデザインを作成し、市内にある約290か所の全バス停看板の変更を行う。これらの事業実施を通じ、利用者利便性の向上および更なる愛着醸成を図る予定である。	コミュニティバスに関する情報発信の面では今までポータルサイトのみでコミュニティバスに関する情報発信を行ってきたが、それは継続しつつも、新たなSNS(InstagramおよびX)を活用し、情報発信を開始した。高齢者の利用がメインのコミュニティバスであるが、若年層にも興味を持ってもらうという取組みであり、市内の高等専門学校に通うバス号車の車内にアカウントのQRコードの設置などを行い、周知を行った。	一度バスに乗ってもらうためのきっかけ作り施策としては、市内イベントで公共交通サービスを展開した際にコミュニティバスの塗り絵を親子連れに行ってもらい、夏休み期間にバス車内に掲示することで、親子での乗車や祖父母を交えての乗車を行うきっかけ作りを行った。	あわせて、新しいデザインの小型バス車両5台の更新および市内にある約290か所のバス停丸板看板のデザイン一新を図り話題性の確保、市内温浴施設との提携を図り相互の利用者数増加策、地区路線の一部フリー降車制を実証的に実施することによる利用者からの意見の吸い上げといった新たな施策を実施することで、幅広い年代層の利用者への呼び込みを図る。また、高齢者サロンへの出前講座の継続実施、令和5年度より開始したSNS(Instagram・X)を活用したバス運行情報の発信を継続することで、幅広い年代層に向けたアプローチを引き続き実施する。
鯖江高速観光	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、北中山・中河線、河和田線	⑤循環線の利用者が毎月増加傾向であることから、支線と循環線の接続については既存利用者には周知できたものと考えている。令和5年度についても昨年同様、高齢者サロンに出向きその地区・町内におけるバスの効率的な利用方法について説明を行った。ただし、バスに乗ったことがない層に対して、各路線が重視しているポイントや支線から循環線への接続モデルルート(周知が広く出ていないことから、地区毎(各町毎)への巡回物の配布についても実施していくことを検討している。	ただし、割引料金制度の拡充事業については、令和5年度より1日フリー乗車券の導入の検討を行う予定であったが実施が出来なかった。理由としては、1日フリー乗車券以外の割引制度(乗継券等)が既に充実していることから、1日フリー乗車券の導入は限定的な効果になってしまわないかといった検討があったためである。割引料金制度の拡充事業については、1日フリー乗車券という形ではなく、市内にある温浴施設との提携という形で相互の利用者増加に向けた取組みについて、令和5年度中に市内温浴施設と協議の実施、令和6年度から提携企画をスタート出来るように準備を行っている。	○分析 各地区路線から市内循環線への乗継ぎ利便性の向上により、循環線の利用者数が顕著に伸びている。また、各地区路線においても、1年半新ダイヤでの運行を行うことで利用者が新ダイヤに慣れてきていることから各路線回復傾向である。 特に支線においては、市内にある高等専門学校へ通う学生の利用者が行きただけではなく帰りの便でも鉄道とのダイヤが接続されているため、利用者が多く、R5年度の1便あたりの利用者数は大きく増加となっている。全路線での1便あたりの利用者数も5.0人を超える形となった。	各地区路線と循環線の高い接続性が最も利用者から知ってほしいポイントであるため、各地区路線が意識しているポイントや各地区別に巡回物を行うなどして、利用者への周知に力を入れている。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月27日

協議会名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
-------	-----------------

評価対象事業名:	生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
----------	------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>利用者数の目標については、現状に見合った数値と大きくかけ離れてしまっていたため、R3.12に策定を行った地域公共交通計画内にて、R8年度の利用者目標を170,000人で再設定を行った。</p> <p>今後の事業内容については、新ダイヤでの運行を約2年間終え、ダイヤの定着が図られたことになることから、今後については利用者の利便性向上を目指す施策を行う。R6年春には北陸新幹線敦賀開業に伴い、JR鯖江駅は並行在来線に移るため、電車との乗継ぎ(主に朝夕の通勤および通学者メインの便)についても必要に応じて可能な限りスムーズに乗継ぎが行えるように調整を行う。</p> <p>あわせて、新しいデザインのバス車両5台の更新に伴う話題性の確保、市内温浴施設との提携企画、地区路線の一部エリアにてフリー降車制を実証的に行うこと、バス停丸板看板のデザイン一新など、新たな施策を実施することで愛着を持ってもらえるバスにすること、また日常の移動手段として便利に利用されるコミュニティバスになるよう努める。</p> <p>またつつじバス利用者へのアンケート調査についても新ダイヤに対する利用者の生の意見を聞き出し、更なる利便性向上出来る点がないかを探ることを目的に実施することを検討する。それらから得た意見等について対応を検討できないかを活性化協議会内で協議を行う。</p>
-----------------------------	---

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

鯖江市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年4月～令和5年12月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1_多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 つつじバス年間利用者数 14.4万人(H30年度)→17万人(R8年度)	・利用者ニーズにあったつつじバスのダイヤの設定。 ・利用者利便性が向上、市民がバスに愛着が湧くような利用促進策の実施。	バス事業者から提出される利用者数データを基に算出	令和4年4月よりつつじバスのダイヤ・路線を大きく改正し、令和4年度のつつじバス乗降者の実績は前年度比107%で推移。令和5年度(令和5年4月～12月)についても、さらに増加傾向であり、対前年比120%となっている。 令和4年度実績：113,806人 令和5年度実績(4月～12月)：100,616人 (参考データ)令和3年度実績：106,351人	ダイヤ改正を行い1年9ヶ月が経過し、新しい路線および時刻が利用者に着目して定着してきた。ただ、依然としてバスの効率的な使い方を知らない市民もまだいると感じているため、新たな利用者層獲得に向けた取組みを行うことで目標を上回ることも可能と見込んでいる。	-
1_多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 福井鉄道福武線市内駅利用者数 47.4万人(H30年度)→50万人(R8年度)	・事業者と協働で利用促進イベント等の開催。 ・市内イベント等にてブースを設け、利用促進PRの実施。	福井鉄道側から提出される利用者数データを基に算出	市内イベント等にてブースを設け、利用者促進チラシ等の配布を実施、また市内駅の中心である神明駅にてイベントをR5.11に実施。利用者実績は回復傾向だが、コロナ禍前には届いていない状況である。 令和4年度実績：428,515人 令和5年度実績(4月～9月)：225,063人 (参考データ)令和3年度実績：407,237人	次年度においては、神明駅のみで行ったイベントを市内6駅周辺同時開催のイベントを実施予定。イベントの実施時期についても沿線他市のイベント実施日に合わせて実施するなど人の流動性を生むような工夫をする。	-
1_多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 利用者一人あたり公的資金投入額 552円/人(H30年度)→540円/人(R8年度) ※利用者一人あたり公的資金投入額：つつじバスの運行経費における国県補助金と市の負担額をつつじバス年間利用者で除した値	・効率的な運行体制確立による市の負担分を抑える。 ・利用者数増加に伴う利用者一人当たりの公的資金投入額の削減。	市決算資料より市の負担額および国県からの補助額を基に算出	人件費高騰およびその他運行委託にかかる費用がコロナ禍前と比較して増幅していることから、目標に対して大きく未達の状況である。 令和4年度実績：847円/人 令和5年度実績：未測定(備考のとおり) (参考データ)令和3年度実績：886円/人	つつじバスの利用者数増加に向けた施策を行う一方、市の負担額を抑えるため、新たな広告収入媒体の設定(車両ラッピング広告)を行う予定である。	R5年度の市決算が完了していないため、本年度の分析は現時点では出来ない。
2_まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現 公共交通が充実していると感じている人の割合 58.7%(R元年度)→80%(R8年度)	・つつじバス対象利用者に対して引き続き利用者無料証の発行。 ・キャッシュレス化の導入検討、主要乗継拠点でのバス発着情報案内の設置。	第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の調査結果より	-	-	第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間がR8年度までであり、R6年度時点でアンケートを行うことから、その際に達成状況の確認を行う。
2_まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現 公共交通集落カバー率(鉄道、路線バス、コミュニティバス) 95%(R3年度)→97%(R8年度)	・必要に応じてコミュニティバスの新規バス停の設置検討および路線の一部変更に伴うカバー率向上。	町内毎のバス停の位置および鉄道等の駅を基に確認	令和4年4月につつじバスのダイヤ改正・路線を改正したことにより、バス停の廃止・新設、路線の再編を行うことで公共交通集落カバー率の向上。令和5年度については令和4年度と路線およびバス停位置の変更がないため、カバー率の変更無し。 令和4年4月時点 公共交通集落カバー率 96% 令和5年4月時点 公共交通集落カバー率 96% (参考データ)令和3年度実績：95%	引き続き各地区からの要望等も踏まえながら、バス停の追加、路線の一部変更を行っていく中で、R8年度までに目標の97%を達成する。	-
3_観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現 つつじバスポータルサイト(バスどこサービス)アクセス数 15.7万回(H30年度)→16万回(R8年度)	・バスどこサービスの利便性を市民および来訪者にPRを行い知名度アップを図る。	市の広報担当課に確認	令和5年度についてはダイヤ改正が無かったこと、また最も利用者が多い路線である循環線をパターンダイヤ化し、利用者にダイヤの定着が図られたことからアクセス数が減少したと想定。 令和4年度実績：147,504回 令和5年度実績(R5.4～R5.12実績)：72,707回 (参考データ)令和3年度実績：126,936回	他SNS(鯖江市公式LINEやその他Facebookアカウントなど)との紐づけによるアクセス数増加を図る。	-
4_市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現 公共交通利用促進のための市民団体の活動回数 12回(H30年度)→15回(R8年度)	・各市民団体と協働し、公共交通の利用促進施策の検討を進める。	各市民団体の活動回数にて算出	R5.6およびR5.11に市内イベントおよびイベントを開催し、顔出しパネルの設置や公共交通を利用してもらおう取組みを行い、親子連れを中心にPRを行った。 令和4年度活動実績：6回 令和5年度活動実績(R5.4～R5.12)：6回(今年度残りに見込み+2回) (参考データ)令和3年度活動実績：3回	今年度に引き続き、市内イベントに積極的に参加を行い、その時々での公共交通のPRポイントを継続的に行う。	-

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(○年○月～○年○月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。